

## 和歌山県支部

### 和歌山県の道の駅の振興策に関する調査・研究

和歌山県支部では、平成 21 年度の調査・研究事業で、観光立県を目指す和歌山県の状況を考慮して、「和歌山県の観光の現状と今後の在り方」を報告書にまとめた。

そのなかで問題になったのは、公共交通機関の発展していない和歌山県を訪れる観光客は、自家用車、観光バス等の車の利用者が非常に多いことであった。しかし、観光客の多い県南部では車の休憩施設としてのドライブイン等の整備が少なく、この対応策として公共施設である道の駅をより多く快適に利用してもらい、車での観光客に満足感を与え、リピーターとして、また口コミでの観光客増加を考えて、「和歌山県の道の駅の振興策について」調査・研究を実施することにした。

事業の内容としては、和歌山県の全道の駅（調査・研究時は 21 駅）の実態調査、アンケート調査、ヒアリング調査、問題点の抽出、今後のあるべき姿の提言をし、関係者及び一般人を対象とするセミナーの開催を行い、最終的には報告書にまとめることにした。

実施方法及び場所としては、文献調査、統計調査、道の駅及び市町村の道の駅担当者に対するアンケート調査、ヒアリング調査等による現状の把握と問題点の抽出及び今後の在り方を、和歌山県下の道の駅すべてに対して行うこととした。

その過程で、多くの問題点が抽出されたが、その問題点を各道の駅ごとに改善策を提起するとともに、和歌山県の道の駅全体についての改善策も、マネジメント、施設、品揃え、食事処、イベント、道路にまとめて具体的な問題点と改善策の提言を行った。

今後も、道の駅はまだ増加すると思われる。和歌山県でもこの調査・研究のまとめを行った後に、那智勝浦町に道の駅【なち】が平成 22 年 11 月 3 日にオープンし、古座川町に道の駅「瀧の拝太郎」が平成 22 年 8 月 9 日に登録されて、現在建設中である。それらを考えると、今回の「和歌山県の道の駅の振興策について」の調査・研究は、時宜を得たものであると自負できると考える。

時間的・経費的な制約もあり、満足のいくものではないが、この調査・研究結果が今後の和歌山県の道の駅が「休憩機能」「情報発信機能」「地域の連係機能」の 3 機能をますます発揮するとともに、ひいては観光客の誘引や地域の発展の一助になればと願うものである。

今後は、和歌山県及び市町村の道の駅担当者、道の駅の責任者、観光関連業者、和歌山県支部等で委員会を構成し、よりきめ細かい道の駅の活性化策を考える必要がある。